

高齢者のごみ出しの現状と課題について

1 現状

(1) 日常生活に問題がない場合

- ・集積所まで自分でごみ出しを行う。

(2) 日常生活に多少の困難があり、ごみ出しがしづらい場合

- ・地域づくり協議会が実施する支え合い事業の中で、支援会員による生活支援の取組を実施しており、依頼があればごみ出しを行う。
- ・基本チェックリストでサービス事業対象者となった方及び要支援1・2の方で、ケアマネがケアプランに訪問型サービスBを取り入れると、シルバー人材センターの会員や、地域づくり協議会の支援会員が生活支援としてごみ出しを行うことがある。
- ・認知症の方やその介護者の負担軽減を図るための有償サービスである「オレンジサポートかりん」の活動の一つとして、支援会員によるごみ出し支援がある。

(支え合い活動の実施状況) 令和5年3月末現在

地区名	設立年月	利用会員	支援会員	ごみ出し (延べ件数)
稲生地区・稲生助け愛ネット (訪問型サービスB実施地区)	令和元年7月	70名	28名	15件
旭が丘地区・旭お助け隊	令和2年4月	85名	28名	4件
国府地区・幸ネット (14自治会の内、4自治会で実施)	令和2年11月	13名	42名	2件
庄野地区・ささえあいま庄野	令和2年11月	38名	25名	91件
郡山地区・ともに生きよう郡山	令和3年11月	4名	13名	0件
合川地区・支え合いネットあいかわ	令和3年12月	12名	19名	123件
天名地区・天名生活支援ネットはごろも	令和3年12月	7名	21名	0件

※牧田地区・長太地区・深伊沢地区・鈴峰地区は、令和4年度に立ち上げ、令和5年度から活動を開始。鼓ヶ浦地区・井田川地区が令和5年度に立ち上げ。

※旭が丘地区と庄野地区が令和5年度から訪問型サービスBを開始。

※その他の地区については、地域づくり協議会にて実施の検討が進められている。

(3) 日常生活に問題があり、ごみ出しができない場合

- ・ヘルパーが家事支援としてごみ出しを行う。

2 課題

- ・ごみ出しの対策については、介護保険によるフォーマルな支援と、地域の支え合い活動やボランティアによるインフォーマルな支援があるが、インフォーマルな支援については、地域ごとに取り組内容が異なることや、全ての地域で実施されていない現状があり、担い手不足も課題のひとつとなっている。
- ・ヘルパーのごみ出しについては、集積時間が基本的にヘルパーの始業前であり対応が難しく、朝の時間は支援が集中する時間帯であるため、ヘルパーの派遣が難しい。また、ヘルパーは各利用者への訪問を続けて行うことが多く、原則ごみの持ち帰りが禁止であるため、ここにも問題がある。

<鈴鹿亀山地区広域連合が実施したアンケート調査結果から抽出された課題>

- ・「近所で困っている高齢者のみ世帯等への対応」については、「頼まれれば手伝いたい」という回答が多いが、「自分のことが精一杯でできない」という消極的な回答も多く、地域における支え合いの意識の醸成について課題がある。
- ・「どのような条件が整えば、地域で困っている方を手伝えるか」については、「一緒に活動する仲間がいればできる」、「自分が得意なことを生かせるのであればできる」という回答が多く、意欲のある方を地域活動につなげるための仕組みづくりが必要である。
- ・介護予防・日常生活支援総合事業の訪問型サービス等を勧めていないケアマネジャーへの調査で、勧めていない理由として「サービスの実情が分からず、勧めづらい」という回答が多く、ケアマネジャーへのサービスの周知・啓発が必要である。
- ・ボランティア等による介護・生活支援サービスを活用できていないケアマネジャーへの調査で、活用できていない理由として「提供量が少ない」「地域により差がある」「提供内容が分かりづらい」といった回答が多く、ケアマネジャーへのサービスの周知・啓発や、地域での支え合い活動の普及を推進する必要がある。